

再会



銀座テラーグループ社長 鰐淵美恵子
わにぶち みえこ

その出会いは衝撃的だった。「まさか?」「でも、やはり」。場所はパリ、ポンピドゥー・センターで、印象派からコンテンポラリーまでを展示していた。事情があつて、手放した娘がそこにいるような衝撃! パウル・クレール作「フィオルデイリッジに扮した歌姫」が昔のままに飾られていた。

時はバブルのころ、銀座テラー創業者の収集した美術品は、西洋・日本・古美術どれをとっても超一流で、残っていればそれだけで立派な美術館がつくれる珠玉の逸品ぞろいだった。ルノワール、セザンヌ、アンリ・ルソー、ユトリロ、シャガール、ルオー、梅原龍三郎、岡田三郎助、加山又造、藤島武二、安井曾太郎等々、どちらかといえばプロ好みの収集であった。そのなかでも藤田嗣治は、質と量では当時どこにも引けを取らず「藤田を見なければ銀座テラーに行かない」と言われたくらいだった。銀座テラーを継承した2代目は、父のコレクションのすべてを売却、自分好みのコレクションにつくり替えた。バブル絶頂期、ニューヨークのサザビーズや、ロンドンのクリステイ



ズのオークション会場で競り落とした作品群は圧巻であった。膨大なコレクションのなか

でもアメリカンコンテンポラリーを日本にもたらし、世界の価格上昇に寄与したのではないかと思う。

代表的な作家は、アンディー・ウォーホル、リキテンシュタイン、ジャクソン・ポロック、カンディンスキー、ファインニング、パウル・クレール、ホアン・ミロ、デュビュッフェ、ピカソ、モーリス・ルイス、フランツ・クライン、ディーベンコーン、ブラック等々。

1990年に当社は「チャリティーコンサート」をサントリーホールにて開催した。池田満寿夫画伯を司会に迎えて絵画の解説、佐藤陽子氏のバイオリン演奏(当時5億円のガルネリのお披露目)という2本立ての内容で、そのポスターにはパウル・クレール「フィオルデイリッジ」が写っている。

バブル崩壊後にそれらのコレクションをすべて売却したが、最後まで残したあの「フィオルデイリッジ」に2年前ポンピドゥー・センターで再会した。「元氣?」と声をかけたら、その絵は同じポーズで私に「もちろん」と答えたように思えた。

日本中がバブルに沸き、その崩壊後自信喪失に陥った日本人。今年は戦後70年間で一番長い好景気だそうだが、実感のない好景気は日本凋落の一步にならなければよいのだが。

中身の無い箱ものばかりが目立ち、世界の名画がもはや日本に集まらない。幻に終わった「鰐淵コレクション」の数々は、人の思惑とは関係なくこれからも世界を巡る。